

パプリカの消費動向とニーズの把握

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

パプリカの取扱数量や価格の推移，消費者の認知度や県産品パプリカへのニーズが明らかになったので参考資料とする。

2 参考資料

1) パプリカの取扱量・価格の推移

仙台中央卸売市場における取扱数量・平均価格は図1のようになっている。H14～H15にかけて若干数量は減少傾向に見えるが、この間、東京中央卸売市場での取扱数量は増加傾向にあり(H14:3560 t H15:3577 t)、全国的に見てもまだ増加傾向にある。

2) パプリカの認知度と購買動向

a. パプリカはここ数年でよく購入されるようになってきている(表1)。また、一般的に安全性の重視や国産品を好む傾向にあると言われている生協組合員と一般消費者を比較して認知度や購買動向がどうかをアンケートにより比較したところ、回答者の属性に関係なく、ほぼ100%の回答者がパプリカを食べたことがあり認知度は非常に高い(データ略)。

b. パプリカの購入理由は「彩り」を選択した回答者が最も多く、栽培する色も重要である。一度に数色まとめて購入している人も約2割いるが、赤：黄：オレンジ＝7：2：1で好まれており、彩りを考えた作付けが必要といえる(表2, 3)。

c. パプリカがピーマンより栄養面で優れていることを知っている回答者が多く、購入頻度も多いのは生協組合員の方である(表4, 5)。

3) パプリカを購入の際に重視する項目

コンジョイント分析により解析した結果、生協組合員、一般消費者ともに、「産地」、「価格」、「大きさ」の順で重視している。また、「産地」の項目の中では「県内産」を重視している割合が大きく、県産品パプリカのニーズが高い。パプリカを購入する際に重視する項目の組み合わせは、生協組合員、一般消費者ともに「県内産」、「100円」、「大きさは「大きい」である(図2, 3)。

3 利活用の留意点

1) パプリカの取扱量・価格の推移は「仙台市中央卸売市場年報」による。

2) 「ここ数年でよく購入するようになった野菜について」の調査は、仙台市内消費者(当研究所の消費者アンケート協力者)234名へ、平成16年11月上旬に郵送で行った結果である。

3) パプリカの購買動向調査は、M生協組合員109名へM生協店頭で平成16年10月中旬に調査を行った結果であり、一般消費者120名へは平成16年10月下旬の県主催のイベント開催時に配布・回収を行った結果である。

4) コンジョイント分析とは、商品などの「もの」全体に対する回答者の好き嫌いの評価から「もの」を構成する各要因の評価を推定する1手法である。本調査では、パプリカを構成する要素(3属性、2～3水準)を直行配列によって9種類に組み合わせ、アンケートに記載した組み合わせ説明図の選択順位を基に、各要素の重要度と効用値を解析した結果である。

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間：経営の幅を広げる水田転換用新規品目と栽培流通システムの開発(平成16年度)
- 2) 参考データ

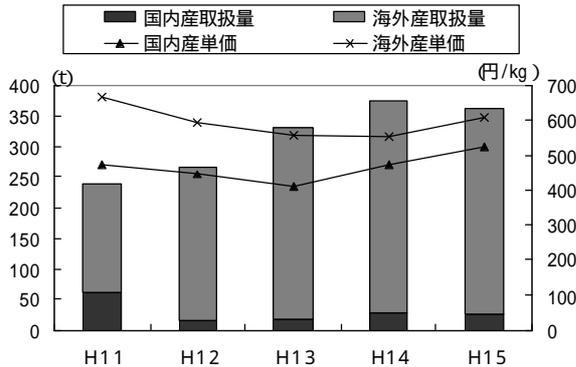


図1 仙台市中央卸売市場におけるパプリカ(ジャンボピーマン)の取扱数量と単価

表1 ここ数年で購入する機会が増えた野菜等について

NO	品目	人数
1	水菜	55
2	ブロッコリー	50
3	パプリカ	25
4	エリンギ	18
5	ちんげん菜	17
6	ゴーヤ	14

注)自由記述,複数回答での回答数が多かった品目を上位より掲載

表2 パプリカの購入理由(複数回答)

	彩り	栄養面	おいしそう	その他
回答者	157	105	50	20

表3 何色を購入することが多いか

	赤	黄色	オレンジ	数色まとめて	その他の色
回答者	124	34	11	40	0

表4 パプリカの購入頻度

	今までに数回	月に一度	数週間に一度	1週間に一度	その他	²
一般消費者	54	22	19	9	2	10.62*
生協組合員	35	17	21	23	7	

注:*は5%水準で有意。

表5 パプリカがピーマンより栄養価高いことを知っているか

	はい	いいえ	²
一般消費者	56	49	4.65*
生協組合員	70	33	

注:*は5%水準で有意。

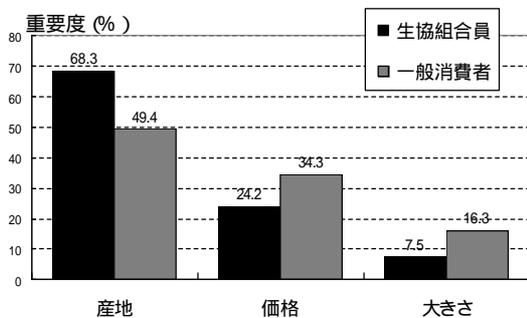


図2 パプリカを購入する際に重視する項目について(コンジョイント分析 要素別重要度)

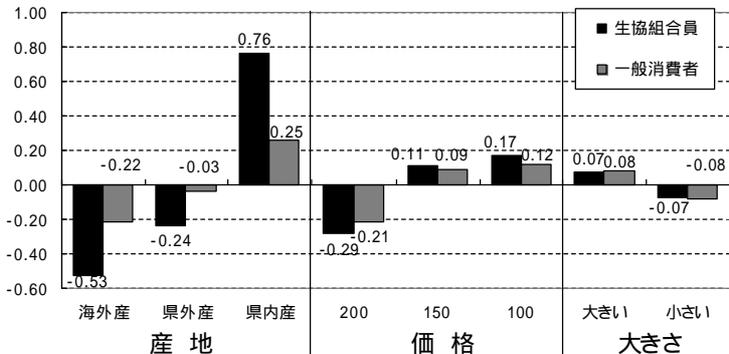


図3 各項目の中での選好割合(コンジョイント分析 部分効用値)

注)数値が+のものは選好度が高いものである。

- 3) 発表論文等 なし